

## 平成30年度当初予算案における主要な施策

部 局 名
県 土 整 備 部

## 新規事業及び重要事業総括表

### I 総 額

#### 【一般会計】

区分	平成30年度	平成29年度	伸び率
予算総額	90,286,623千円	89,007,127千円	1.4%
一般会計構成比	4.8%	4.8%	—

#### 【埼玉県用地事業特別会計】

予算総額	1,664,279千円	2,020,750千円	△17.6%
------	-------------	-------------	--------

#### 【参考 公共事業の予算額】

(単位：千円)

区 分	平成30年度	平成29年度	増 減	伸び率
合 計	81,142,290	79,034,865	2,107,425	2.7%
直轄事業負担金除き	69,230,290	66,194,865	3,035,425	4.6%
道路事業	49,062,057	47,470,310	1,591,747	3.4%
補助	14,640,593	13,855,505	785,088	5.7%
単 独	34,421,464	33,614,805	806,659	2.4%
河川事業	20,168,233	18,724,555	1,443,678	7.7%
補助	9,771,330	8,905,787	865,543	9.7%
単 独	10,396,903	9,818,768	578,135	5.9%
計	69,230,290	66,194,865	3,035,425	4.6%
補助	24,411,923	22,761,292	1,650,631	7.3%
単 独	44,818,367	43,433,573	1,384,794	3.2%
直轄事業負担金	11,912,000	12,840,000	△ 928,000	△ 7.2%
道路事業	4,500,000	4,500,000	0	0.0%
河川事業	7,412,000	8,340,000	△ 928,000	△ 11.1%

## Ⅱ 平成30年度主な新規事業及び重要施策

(単位 千円)

### 1 災害に強い県土づくり

P 1	新規	路面下空洞調査【道路環境課】	49,100
P 2		東京都とのスクラム強化による道路整備【道路街路課】	1,917,222
P 3		橋りょうの計画的な点検・整備【道路政策課・道路街路課・道路環境課】	14,000,095
P 4		局地化、激甚化する降雨に対応する治水対策【河川砂防課】	11,391,601
P 5		不老川の緊急的な浸水対策【河川砂防課】	1,420,000
P 6	新規	放水路を活用した浸水対策【河川砂防課】	1,400,000
P 7		土砂災害から人命・財産を守る総合的な対策【河川砂防課】	1,054,572

### 2 生活の質を高める県土づくり

P 8		暮らしの安心安全を支える歩道整備【道路環境課】	2,015,750
P 9		円滑な交通と安全を確保する交差点整備【道路環境課】	1,334,440
P 10		駅周辺の安全で快適な歩行者・自転車通行空間整備【道路街路課・道路環境課】	734,803
P 11		河川管理施設等の適切かつ計画的な維持管理【河川砂防課・水辺再生課】	3,774,919
P 12	新規	ドローン等による河川・ダムでの3次元測量【水辺再生課】	15,093

### 3 地域の良さを活かす県土づくり

P 13		威力倍増！幹線道路ネットワークの整備【道路街路課】	7,470,096
P 14		魅力UP！時間が見えるインターアクセス道路整備【道路街路課】	3,628,129
P 15		SAITAMAおもてなしロードの整備【道路街路課】	522,330
P 16	一部新規	SAITAMAラグビーロードの整備【道路街路課・道路環境課】	1,509,615
P 17		川の国埼玉はつらつプロジェクト推進費【水辺再生課】	1,108,000

# 路面下空洞調査の実施

担当 道路環境課 補修担当  
内線 5105

## 1 背景・目的

近年、地下空間にあるインフラの老朽化により道路の下に空洞が生じ、突然道路に陥没が生じる事例が数多く報告されている。

また、首都直下地震のような大地震が発生した場合には、地盤がゆるむことで空洞が急激に拡大し、道路陥没が発生することで道路が閉塞する懸念がある。

そこで、路面下空洞調査を実施し、発見された空洞を修繕することで、道路陥没を未然に防ぎ、道路利用者の安全確保、災害発生時の道路閉塞リスクの低減を図る。

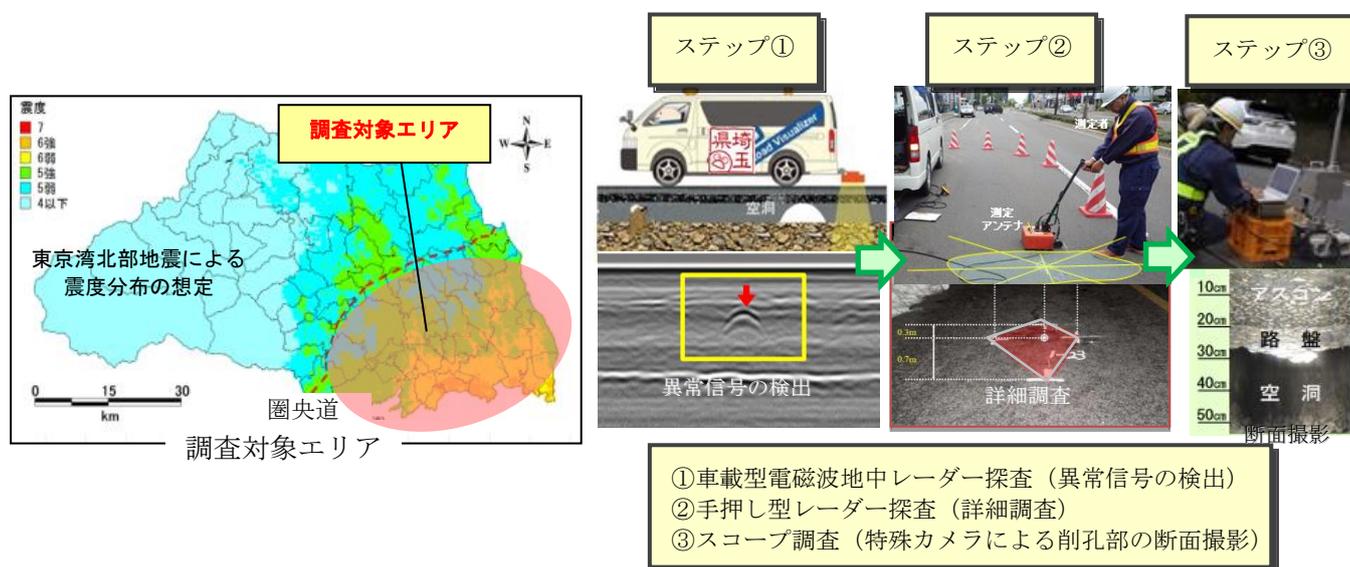


県管理道路における陥没事例

## 2 事業の概要

東京湾北部地震により震度5強以上が想定される地域が集中する圏央道以南の県が管理する緊急輸送道路を対象とし、平成30年度から平成34年度までの5カ年で全ての路線の調査を実施する。

平成30年度実施箇所：足立川口線ほか8路線（路線延長：62km）



路面下空洞調査の一例

## 3 予算額 49,100千円

# 東京都とのスクラム強化による道路整備

担当 道路街路課 県道・街路担当  
内線 5074

## 1 背景・目的

県西部地域における都県境の道路網が脆弱であることから、この地域の発展や災害発生時の円滑な援助・救援活動が難しい状況になっている。このため、埼玉県と東京都を結ぶ幹線道路ネットワークの強化を目的とし、東京都と連携して都県境の未接続道路を整備する。

## 2 事業の概要

都県境が未接続道路となっている県道練馬所沢線（東京狭山線、放射7号線）、都市計画道路飯能所沢線の2路線の整備を推進する。

### ○ 事業箇所の例（県道練馬所沢線：所沢市、新座市）

<b>位置図</b>	
<b>凡例（練馬所沢線）</b> —: 埼玉県整備済 - - -: 埼玉県施行 —: 東京都整備済 .....: 東京都施行	
<b>①練馬所沢線の整備状況（所沢市下安松）</b>	<b>②練馬所沢線の現状（新座市新堀）</b>

3 予算額 1,917,222千円

# 橋りょうの計画的な点検・整備

担当 道路政策課 政策担当

内線 5018

担当 道路街路課 橋りょう担当

内線 5068

担当 道路環境課 防災担当

内線 5107

## 1 背景・目的

埼玉県が管理する橋りょうの多くが高度経済成長期に建設されており、大規模補修や更新の時期を迎え、補修・更新費用の急速な増加が見込まれる。

道路機能の安全性と信頼性を持続的に確保するため、橋りょうの計画的な点検・整備を行う。

## 2 事業の概要

### (1) 着実な点検の実施

橋りょうの劣化の進行状況や補修の必要性を把握するため、1,100橋の定期点検を行う。

### (2) 維持補修及び架換えの実施

橋りょうの安全性を確保するため、保全計画に基づいた計画的な橋りょうの維持補修や架換えを行う。

維持補修：県道さいたま東村山線（秋ヶ瀬橋／志木市）など154箇所

架換え：県道騎西鴻巣線（青柳橋／行田市）など25箇所

### (3) 耐震補強の実施

大規模地震の発生に備え、耐震補強を行う。

県道川越新座線（九十橋／川越市）など27箇所

## ○ 事業箇所の例



橋桁劣化事例



橋りょう架換え工事  
県道騎西鴻巣線(青柳橋)

3 予算額 14,000,095千円

# 局地化、激甚化する降雨に対応する治水対策

担当 河川砂防課 荒川中流・小山川流域担当  
内線 5 1 3 5

## 1 背景・目的

近年、記録的な豪雨に伴う河川からの溢水や市街地での内水氾濫の発生など、甚大な浸水被害の危険が高まっている。このような局地化、激甚化する降雨に対応するため、公共下水道（雨水）を管理する市と連携して計画的な河川整備や流域対策、再度災害の防止に向けた緊急的な治水対策を推進する。

## 2 事業の概要

### (1) 計画的な河川整備

県（河川）と市（下水道）で協議会を設置して浸水被害の原因調査や被害軽減対策の検討、対策事業の重点実施等、河川と下水道の連携整備の取組を推進する。このうち、県では市が整備する下水道の受け皿となる河川の整備を重点的に進める。

また、河川の上流域で発生している浸水被害を軽減するため、中・上流域の調節池を先行して整備することにより、その上流の河川改修をスピードアップする。

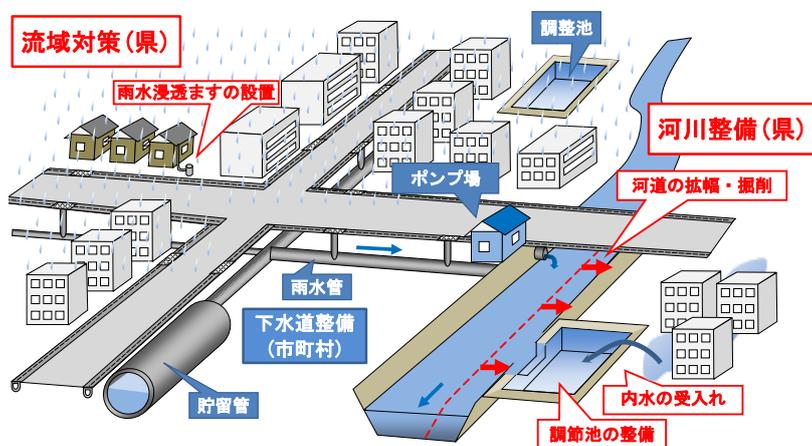
### (2) 流域対策

降った雨が河川に一気に集まることによる洪水の発生を抑えるため、住宅各戸への雨水浸透ますの設置など雨水流出抑制対策を推進する。

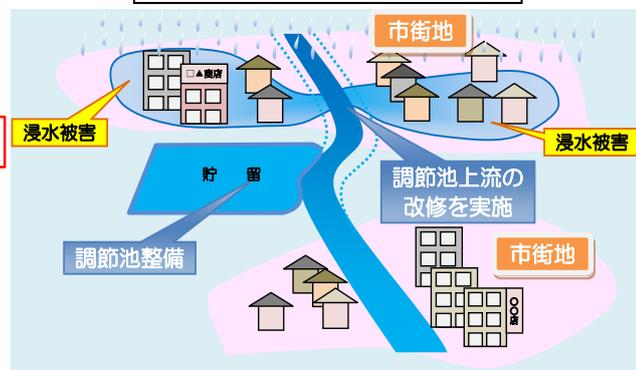
### (3) 再度災害の防止に向けた緊急的な治水対策

近年の豪雨により発生した浸水被害実績等を踏まえ、調節池等を活用した内水対策や不老川の緊急的な浸水対策（P 5 参照）、放水路を活用した浸水対策（P 6 参照）を推進する。

河川と下水道の連携整備、流域対策、調節池等活用内水対策



中・上流域の調節池の先行整備



3 予算額 11,391,601千円

# 不老川の緊急的な浸水対策

担当 河川砂防課 新河岸川・荒川下流域担当  
内線 5143

## 1 背景・目的

平成28年8月の台風9号では、狭山市入曽において観測史上最大となる3時間で196mmの降雨を記録するなど、県西部地域を中心に記録的な豪雨となった。

この豪雨で狭山市、入間市を流れる不老川の中流部・上流部では、河川の氾濫により甚大な浸水被害が発生した。

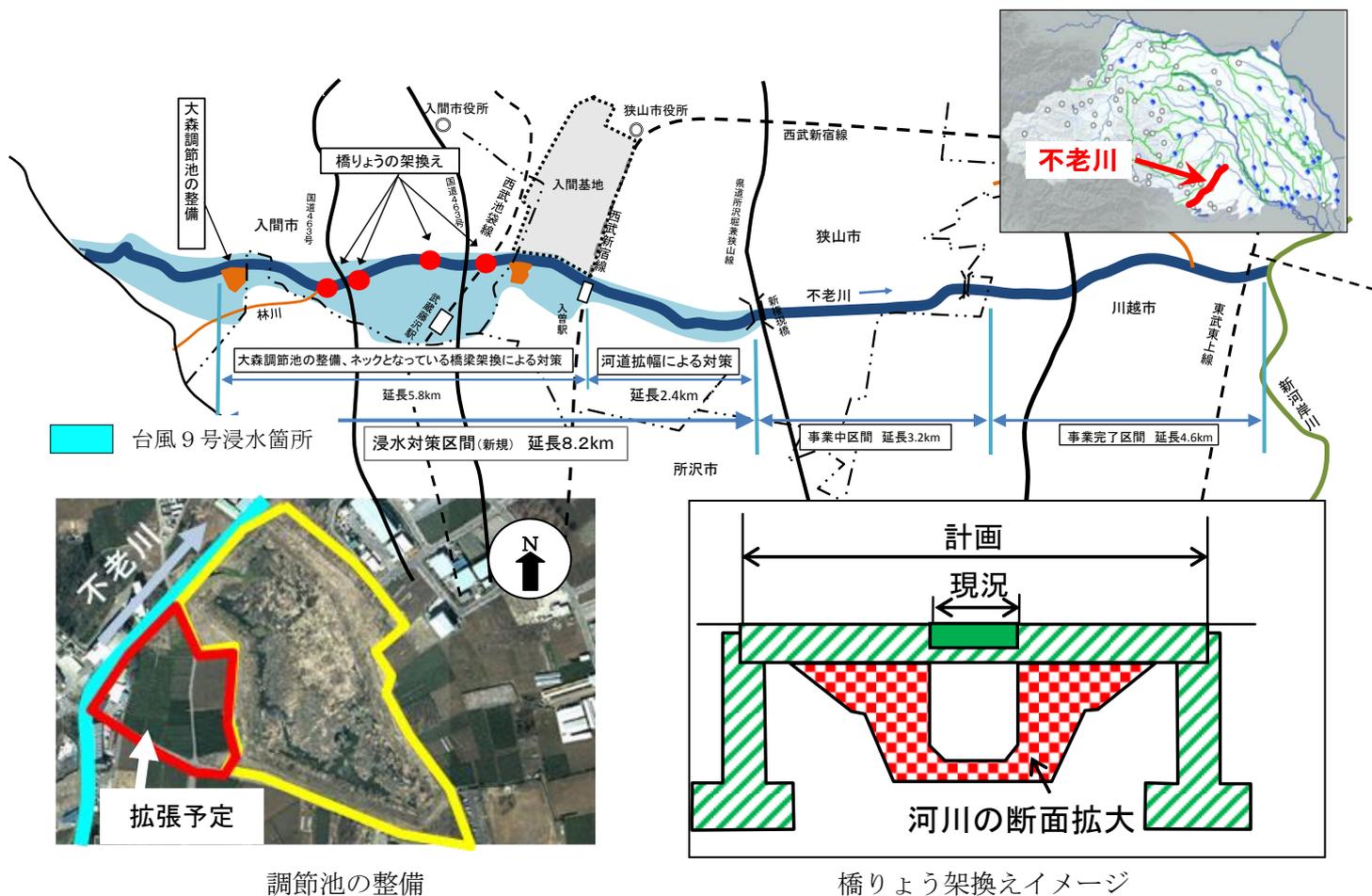
そこで、不老川の河川整備を集中して行い、床上浸水被害の早期解消を目指す。



不老川の洪水状況（入間市）

## 2 事業の概要

不老川の中・上流域において、大森調節池の整備、橋りょうの架換え、河道拡幅等を平成34年度までに行う。平成30年度は橋りょう架換えの設計、用地買収、工事を行う。



3 予算額 1,420,000千円（再掲）

# 放水路を活用した浸水対策

担当 河川砂防課 計画調査担当  
内線 5 1 6 2

## 1 背景・目的

近年、記録的な豪雨の頻発により、低平地の市街地の雨水が河川に吐ききれない、いわゆる内水被害が発生している。

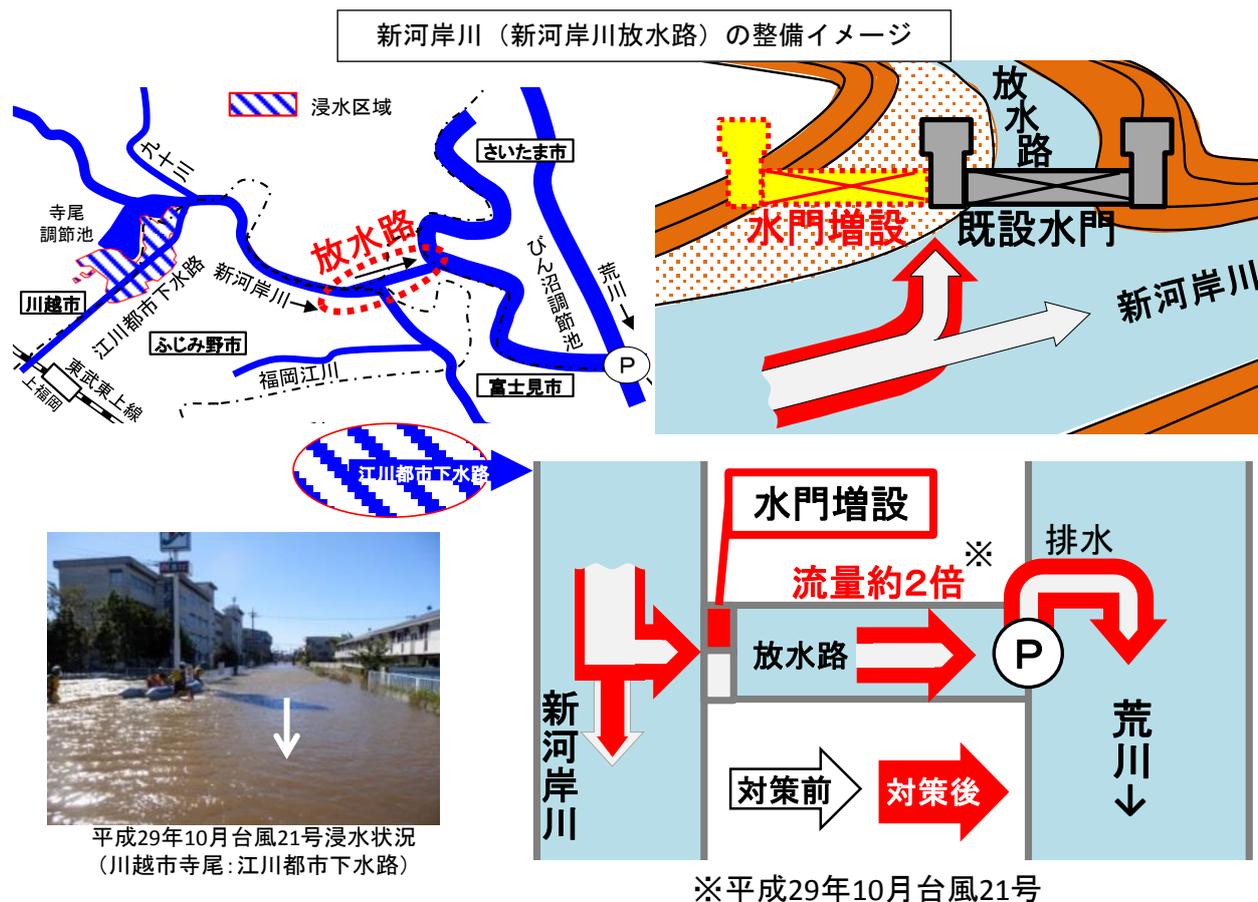
そこで、河川の流量を調整する施設を整備することで、既に整備済みの放水路を有効に活用し、浸水被害の早期軽減を図る。

## 2 事業の概要

河川本川と放水路の分岐点において、水門の増設などの流量調整施設を整備することにより流量の配分調整を行う。

流量調整施設の整備により、河川の水位が下がり、内水を受け入れやすくなるため市町による内水排水が強化されるなど、浸水被害の早期軽減が図られる。

新河岸川（新河岸川放水路）と中川（幸手放水路）の2箇所で事業を実施する。



3 予算額 1,400,000千円 (再掲)

# 土砂災害から人命・財産を守る総合的な対策

担当 河川砂防課 荒川上流域・砂防担当  
内線 5141

## 1 背景・目的

気候変動による局地的な大雨の増加や台風の大型化など、これらによる土砂災害が頻発・激甚化している。平成29年7月の九州北部豪雨では307件の土砂災害が発生し、死者40名という甚大な被害があった。近年では、要配慮者が逃げ遅れて犠牲になる被害も発生している。

このような土砂災害被害から人命と財産を守るため、土砂災害防止施設の整備や警戒避難体制の充実など総合的な対策を推進し、県民の安全安心を確保する。



平成28年8月台風10号で犠牲になった  
岩手県岩泉町の高齢者施設



平成29年7月大分県日田市小野地区で発生した土砂崩れ

## 2 事業の概要

土砂災害防止施設を整備するとともに、市町村と連携して警戒避難体制の充実を図る。

### 土砂災害防止施設の整備



砂防えん堤工／慈光寺川地区



急傾斜地崩壊対策工／細入地区



溪流保全工／南小畔川

### 平成30年度事業内容

- ・土砂災害のおそれのある箇所のうち、要配慮者利用施設や避難場所等を有する箇所を重点的に実施する。
- ・中期的な整備計画を作成し、戦略的な事業展開を図る。
- ・維持管理計画を策定し、施設を長寿命化させることにより、維持コストの縮減を図る。
- ・市町村が作成する避難計画や避難訓練の実施等を支援する

・砂防事業	ときがわ町滝山・萬開沢地区外	19箇所
・急傾斜地崩壊対策事業	秩父市川俣地区外	11箇所
・地すべり対策事業	東秩父村上の山地区外	11箇所

## 3 予算額 1,054,572千円

# 暮らしの安心安全を支える歩道整備

担当 道路環境課 交通安全施設整備担当  
内線 5097

## 1 背景・目的

埼玉県における平成29年の交通事故死者は177人（全国ワースト2位）を数え、依然として高い水準にある。

また、死者のうち歩行者の占める割合が約4割と最も高いことから、歩行者に対する交通安全対策は喫緊の課題となっている。

そこで、歩行者の安全確保に効果的な歩行者と自動車を分離する歩道整備を進める。

## 2 事業の概要

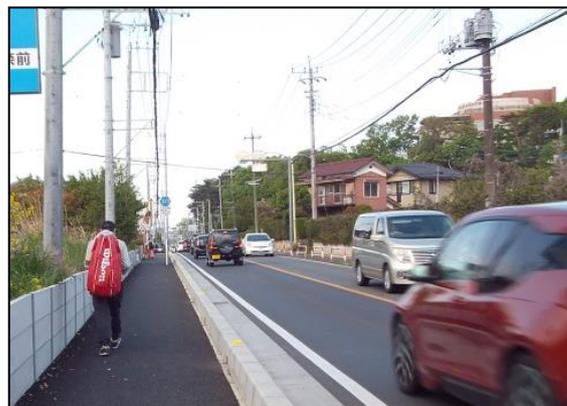
通学児童を中心とした歩行者の安全を確保するため、通学路を優先して歩道整備を進める。

平成30年度は、県道川越日高線など77箇所の歩道を整備する。

### ○ 整備例（歩道整備、県道上尾環状線：伊奈町）



整備前



整備後

3 予算額 2,015,750千円

# 円滑な交通と安全を確保する交差点整備

担当 道路環境課 交通安全施設整備担当  
内線 5097

## 1 背景・目的

埼玉県内の交通事故の約5割が交差点及びその付近で発生しており、右折帯のない交差点では交通渋滞が発生している。

交差点整備を実施した箇所では、交通事故件数が約3割減少、最大渋滞長が約6割減少という効果が得られている。

引き続き交通事故の減少や交通渋滞の緩和を図るため、交差点整備を進める。

## 2 事業の概要

交通事故が多く発生している交差点や最大渋滞長100m以上、最大通過時間2分以上の交差点などから整備箇所を選定し、右折帯や右折避譲帯などの交差点整備を推進する。

平成30年度は、県道川越所沢線など34箇所で行う。

### ○ 整備例（県道草加八潮三郷線：草加市稲荷3丁目）



整備前



整備後

3 予算額 1,334,440千円

## 駅周辺の安全で快適な歩行者・自転車通行空間整備

担当 道路環境課 交通安全施設整備担当

内線 5097

担当 道路環境課 交通事故緊急対策担当

内線 5098

担当 道路街路課 街路担当

内線 5056

### 1 背景・目的

多くの県民が利用する駅周辺の道路には、歩道が狭いなど整備が十分でないところがあり、平成29年の交通事故死者の約6割が、歩行中や自転車乗車中の事故によるものである。

そこで、歩行者や自転車利用者が駅周辺で安心して通行できる道路環境を整備する。

### 2 事業の概要

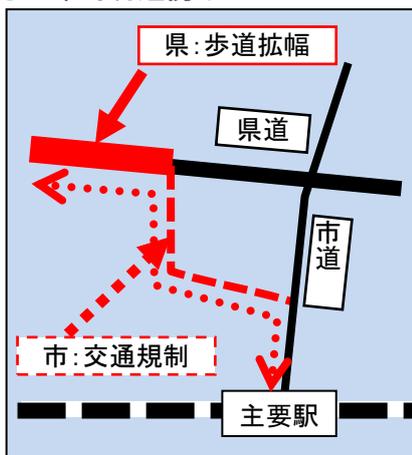
駅周辺の道路環境整備が急務であるが、駅周辺全ての県道を整備するには膨大な時間とコストが必要である。

そこで、市町村と連携し役割を分担して歩道拡幅、既設歩道の歩きやすさ向上、自転車通行空間整備を重点的に推進する。

一例として、市道の交通規制によって歩行者や自転車利用者を自動車交通量の多い県道から市道へ誘導し、県道の歩道拡幅区間を当面短縮することで、短期間で駅周辺の歩行者等の通行環境を改善する。

平成30年度は、和光市駅など9駅周辺で市町村と連携して道路環境改善を行う。

#### ○ 市町村連携イメージ



県：歩道拡幅



市：交通規制



3 予算額 734,803千円

# 河川管理施設等の適切かつ計画的な維持管理

担当 河川砂防課 河川設備担当

内線 5 1 2 8

担当 水辺再生課 ダム管理担当

内線 5 1 4 2

## 1 背景・目的

河川管理施設等が正常に機能するよう、排水機場や土砂災害防止施設の長寿命化を図るとともに、護岸修繕、河道やダムに堆積した土砂の撤去を実施する。さらに、公共事業の効率化・省力化を目的としたドローン等を活用した3次元測量を実施する。

## 2 事業の概要

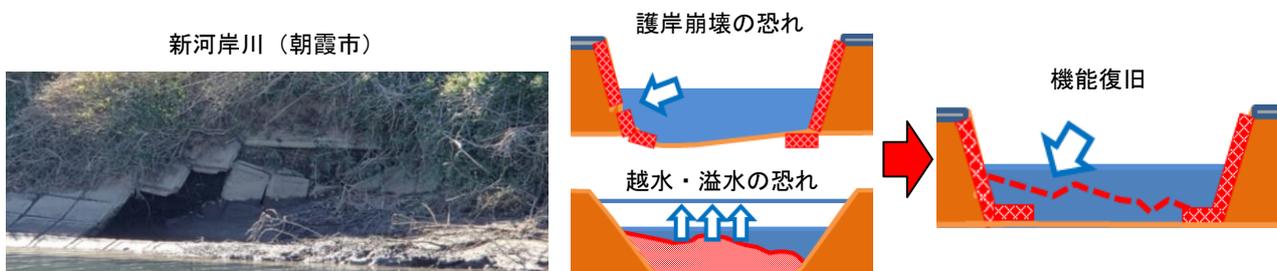
### (1) 河川管理施設等の長寿命化

排水機場、土砂災害防止施設の点検を行い、施設の健全度に合わせて適切かつ計画的な維持管理、更新を実施することにより県内施設の長寿命化を図る。

### (2) 治水機能の復旧

損傷が拡大し崩壊の恐れのある護岸の修繕や、流れを阻害している堆積土砂の撤去などを行い、治水機能の復旧を図る。

新河岸川など39箇所事業を実施する。



### (3) ダム堆積土砂を活用した河床低下対策

有間ダムでは堆積土砂による治水容量の低下が課題となっている一方、入間川では河床低下による護岸崩壊、橋脚の洗掘などが懸念されている。

そこで、有間ダムの堆積土砂を入間川の河床埋戻しに活用することで、入間川の河床を安定させ、河川管理施設等の保全を図る。

### (4) ドローン等による河川の3次元測量 (P 1 2 参照)

公共事業等の効率化・省力化を図るため、河川・ダムにおいてドローン等を活用した3次元測量を導入する。

3 予算額 3, 774, 919千円

## ドローン等による河川・ダム の 3次元測量

担当 水辺再生課 河川維持担当

内線 5 1 1 9

担当 水辺再生課 ダム管理担当

内線 5 1 4 2

### 1 背景・目的

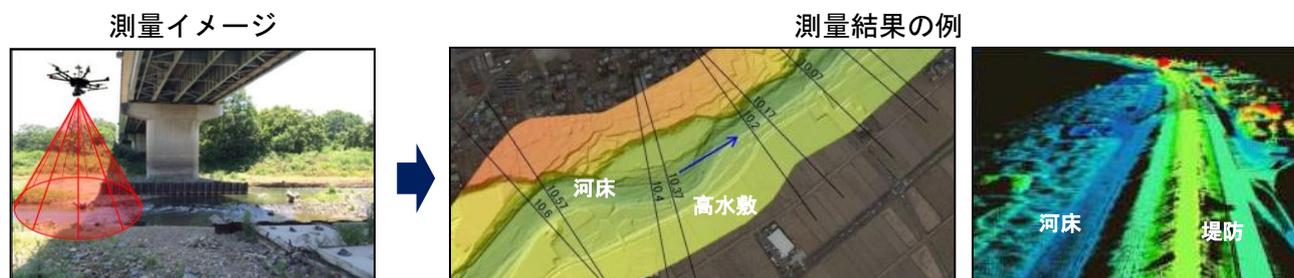
自然公物である河川やダムは、一体となって水害から流域を守るほか、水道水の安定供給などの重要な役割を担う河川管理施設である。

河川管理施設は、近年頻発する豪雨などによる河床低下や土砂の流入により、その機能が低下する恐れがあることから、既存施設の機能をしっかり維持し最大限に活かしていくため、適切に状態を把握することが必要である。

### 2 事業の概要

今回実施する調査では、ドローン等にレーザー計測機器を搭載し、水面に向けてレーザーを照射し、河床の状態を立体的に計測する。

従来の測量と比べ作業効率を大幅に向上させることが期待でき、取得したデータは、土木工事のICT施工に活用でき、工事発注用図面の作成など、用途に応じた様々な活用が可能となる。



#### (1) 河川における3次元測量

河床低下が課題となっている入間川において、河床変動の状況を把握する測量を実施する。これにより、河床低下や土砂の堆積を把握し、より効果的な対策を検討する。

#### (2) ダムにおける3次元測量

土砂の堆積が課題となっているダムにおいて、堆砂状況を把握し、効果的な対策を実施する。有間ダムと合角ダムの2箇所で行う事業を実施する。

3 予算額 15,093千円

# 威力倍増！幹線道路ネットワークの整備

担当 道路街路課 国道・県道・橋りょう・街路担当  
内線 5074

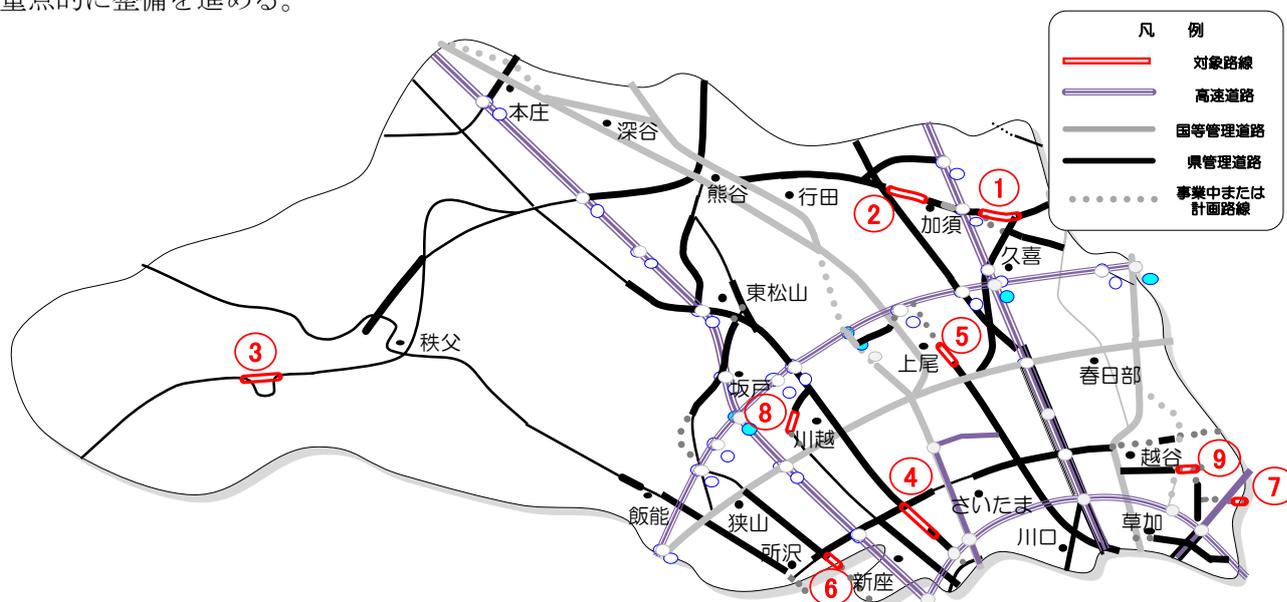
## 1 背景・目的

幹線道路はネットワークの充実により、円滑な交通が確保され、産業支援や地域振興に寄与する役割を果たす。

また、災害時には、一つの道路が被災しても他の道路で代替ルートを確認することが可能となる。そのため、早期に幹線道路ネットワークを完成させることが必要である。

## 2 事業の概要

幹線道路の未接続箇所解消や暫定2車線で整備済の区間の4車線化など、8路線9箇所について、重点的に整備を進める。



No.	路線名	市町村名	工区名
①	国道125号	久喜市・加須市	栗橋大利根BP
②	国道125号	加須市・羽生市	加須羽生BP
③	国道140号	秩父市	大滝トンネル
④	国道254号	和光市ほか	和光富士見BP
⑤	さいたま菖蒲線	上尾市	原市平塚
⑥	練馬所沢線	所沢市	下安松
⑦	越谷流山線	三郷市	(仮称)三郷流山橋
⑧	(都)川越北環状線	川越市	小室
⑨	(都)越谷吉川線	越谷市・吉川市	吉川

3 予算額 7,470,096千円 (一部再掲)

# 魅力UP！時間が見えるインターアクセス道路整備

担当 道路街路課 国道・県道・街路担当  
内線 5074

## 1 背景・目的

圏央道の整備の進展により高速道路網がさらに充実した埼玉県は、都内・東北・日本海側など全方位に産業経済活動を展開できることができ、交通の要衝として埼玉県の魅力がさらに高まっている。

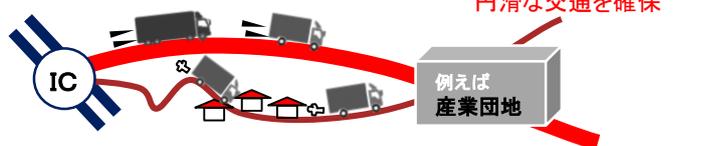
この高速道路ネットワークを最大限に活かすため、アクセス道路の整備を進め、企業進出をさらに促進させる。

## 2 事業の概要

県内の企業立地ポテンシャルを高めるため、埼玉県の骨格を形成する主要な幹線道路である5路線5箇所について、開通目標年度を公表し、インターチェンジへのアクセス機能強化を図る道路整備を推進する。

### ○施策のイメージ

▶目的の地までの時間が見える！



▶開通までの時間が見える！



### ○事業箇所

No	路線	市町村	工区	開通目標年度
①	(都)川越北環状線 [再掲]	川越市	小室	平成30年度
②	県道飯能寄居線	日高市	新堀・北平沢	平成30年度
③	国道125号 [再掲]	久喜市・加須市	栗橋大利根BP	平成31年度
④	国道407号	鶴ヶ島市・日高市	鶴ヶ島日高BP	平成32年度(部分供用)
⑤	県道東松山鴻巣線	吉見町	久保田	平成33年度

3 予算額 3,628,129千円(一部再掲)

# SAITAMAおもてなしロードの整備

担当 道路街路課 街路・特殊街路担当  
内線 5056

## 1 背景・目的

「ラグビーワールドカップ 2019」や「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の開催により、外国人を含めた多くの観光客が埼玉県を訪れることが見込まれる。

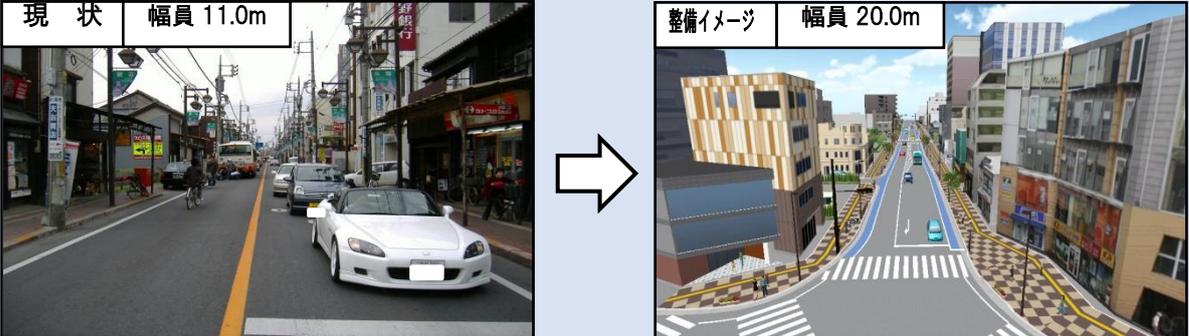
これらを契機に、県内観光地や地域住民の取組などと連携して、埼玉県を訪れる観光客が安心して周遊できる「おもてなし」の道路空間づくりを行う。

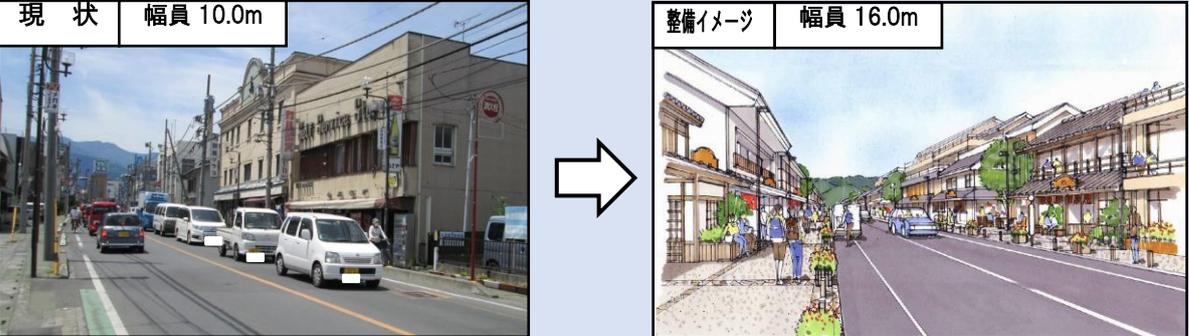
## 2 事業の概要

川越市の都市計画道路中央通り線と秩父市の都市計画道路中央通線の2路線について、電線の地中化や歩道を拡幅することで、歩行者が安心して周遊できる道路を整備する。

道路整備にあわせて、地元市や地域住民は沿道の良好な景観形成に取り組んでいく。

## ○ 事業箇所

<b>①川越市中央通り線</b>		平成 30 年度実施内容：歩道拡幅工事
現 状	幅員 11.0m	
		

<b>②秩父市中央通線</b>		平成 30 年度実施内容：用地買収、歩道拡幅工事(電線地中化)
現 状	幅員 10.0m	
		

3 予算額 522,330千円

# SAITAMAラグビーロードの整備

担当 道路街路課 県道・街路担当  
 内線 5074  
 担当 道路環境課 補修担当  
 内線 5105

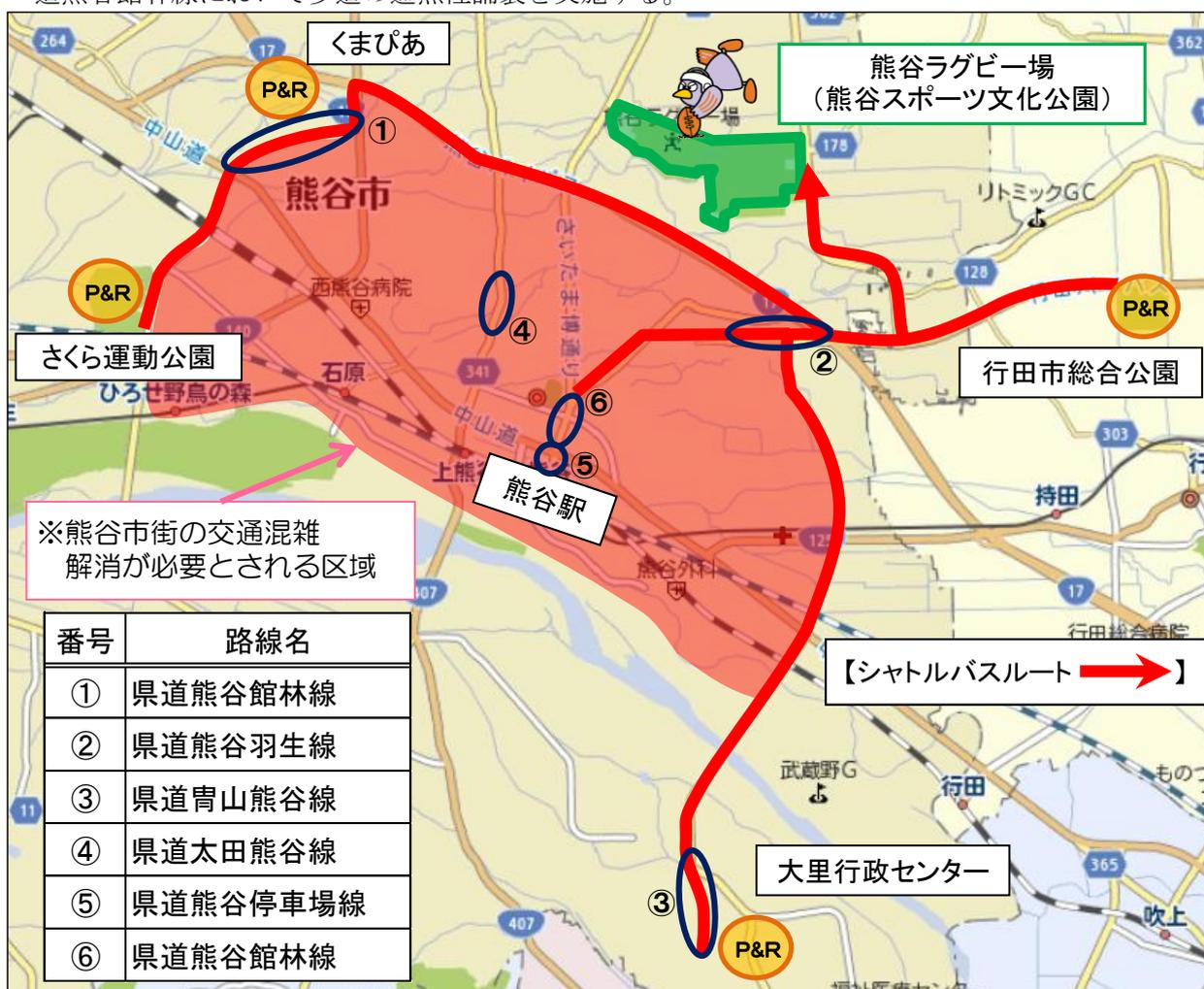
## 1 背景・目的

「ラグビーワールドカップ2019」では、県営熊谷ラグビー場が試合会場となるため、熊谷周辺には多くの観客の来訪が見込まれる。

そこで、円滑な観客輸送を実現するため、地元市と連携しバス輸送ルート等の整備を進め、円滑な観客輸送を実現させる。

## 2 事業の概要

輸送ルートとなる県道熊谷館林線、県道熊谷羽生線及び県道青山熊谷線、熊谷駅周辺の混雑緩和に寄与する県道太田熊谷線の道路整備を行う。また、駅周辺の暑さ対策として県道熊谷停車場線及び県道熊谷館林線において歩道の遮熱性舗装を実施する。



3 予算額 1,509,615千円

# 川の国埼玉はつつプロジェクトの推進

担当 水辺再生課 水辺再生事業担当

内線 5113

## 1 背景・目的

埼玉県は、平成20年度から「水辺再生100プラン」、平成24年度から「川のまるごと再生プロジェクト」を推進してきた。この結果、地域で川を守り利活用する動きが広がり、地域の資産として育ってきている。

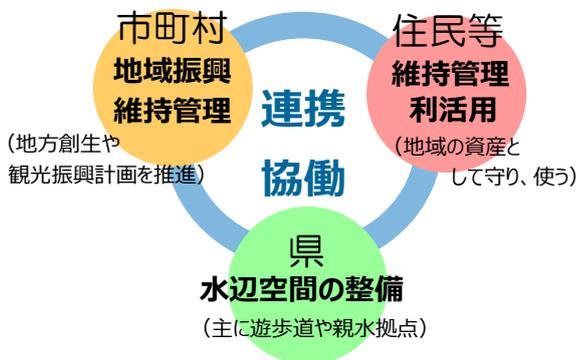
こうした広がりを一層推進するため、市町村の地域振興の取組と連携し、県内各地で様々な川の魅力を実感できるよう水辺空間を整備・拡充し「川の国埼玉」の実現を目指す。

## 2 事業の概要

市町村提案から選定した河川において、市町村の地方創生に係る総合戦略や観光振興等の取組と連携した水辺づくりに取り組む。

平成30年度は、19箇所において市町村が運営する協議会（地域住民や関係団体等）で利活用方策や整備内容など提案内容を具体化し、県は測量・設計及び親水施設の整備を行う。

### 【取組内容】



河川面積割合日本一(3.9%)を肌で実感できるようにする



## 3 事業箇所

河川名	市町村名	河川名	市町村名
1 綾瀬川	さいたま市	11 槻川	小川町
2 綾瀬川	川口市	12 神流川	神川町
3 伝右川	川口市	13 荒川	寄居町
4 新河岸川・柳瀬川	志木市	14 小山川	深谷市・本庄市
5 柳瀬川	新座市	15 忍川	行田市
6 元荒川	鴻巣市	16 伝右川	草加市
7 新河岸川	川越市	17 元荒川	越谷市
8 びん沼川	富士見市	18 新方川	越谷市
9 入間川	飯能市	19 大落古利根川	杉戸町
10 高麗川	日高市		

## 4 予算額 1,108,000千円